

「生きる力」を育てる授業づくり、学校づくり

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を基盤とした「生きる力」と、国際性を身につけた児童、生徒が育つよう、教育内容の充実と、教員の指導力の向上を図ります。また、学校、家庭、地域が一体となって教育環境を整備するとともに、地域に積極的に情報発信できる開かれた学校づくりを目指します。

基本的な施策

- ◇ 学力向上へ向けての授業改善の推進と教育内容の充実
- ◇ 心の教育の充実と体験活動を重視した教育の推進
- ◇ 生徒指導の充実
- ◇ 体力づくりの推進と健康教育の充実及び安全確保
- ◇ 特別支援教育の推進と充実
- ◇ 学校の活性化と開かれた学校づくりの推進
- ◇ 人権教育の推進
- ◇ 幼稚園における保育活動の充実と小学校との連携

学力向上構想懇談会の提言を受けて、**「げんぼプロジェクト」に取り組みます！****(1) 学力向上へ向けての授業改善の推進と教育内容の充実**

「分かる」「楽しい」授業づくりのために、習熟度別少人数指導などの個に応じたきめ細かな指導の推進や、言語活動を重視し「考える力」を伸長する指導法の研究など授業改善に努めるとともに、教職員の意識改革を一層図ります。

全国学力・学習状況調査を活用して、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図ります。特に、家庭学習の充実に向け、「げんぼくんの家庭学習」(※5)に取り組みます。

教員の資質・指導力向上のために、より一層各校の校内研究の充実を図ります。そのため、各種研修会の開催やリーディングスクール(※6)を核とした校内研究推進のリーダー育成を行います。また、津山市学校教育研究センターの活性化を図り、授業研究を中心とした研究活動を充実します。

また、現代的教育課題に対応するため、ICT(情報通信技術)を活用した情報教育の充実、外国人講師の小中学校への派遣による外国語活動の充実、小中連携の研究推進などを図ります。

さらに、新学習指導要領の円滑な実施に向けて、改訂の基本的な考え方・内容等の周知・徹底と、教育課程の見直しや教育内容の改善を引き続き進めます。

(2) 心の教育の充実と体験活動を重視した教育の推進

「津山で育って良かった津山っ子育成アピール（以下津山っ子育成アピール）」（※7）の趣旨を活かし、学校・家庭・地域が連携して心の教育をより一層推進します。

道徳教育の充実を図るとともに、「あいさつ運動」「60・15キャンペーン」「チャレンジ・ハッピーデー」などの啓発運動を広く展開し、児童生徒の豊かな心の育成や規範意識の向上に努めます。

社会性や豊かな人間関係を育むため、「My Townつやま活用事業」（※8）や「職場体験学習」等の体験を重視した教育を推進します。

また、津山洋学資料館など地元教育関係施設や地域の特色を学校教育に活かし、生まれ育った地域の伝統と文化に対する理解を深め、ふるさと津山を愛する子どもを育てます。

(3) 生徒指導の充実

各校における生徒指導体制を確立するとともに、小中学校のきめ細かな連携を一層推進し、積極的な育てる生徒指導の充実に努めます。

スクールカウンセラー、スクールサポーター等の相談員の配置や適応指導教室「ポポロつやま」、津山教育相談センター「鶴山塾」による相談事業を充実させます。

不登校・問題行動への対応では、健全育成団体や健全育成課指導員との行動連携や、ケース会議の開催等による関係機関との連携を図ります。

(4) 体力づくりの推進と健康教育の充実及び安全確保

児童生徒の体力づくり推進のために、新体力テスト等の結果もふまえ、各校の体育の授業やスポーツ活動の活性化を図ります。また、授業や特別活動での健康教育・食育の充実に努めます。

平成24年度からの中学校武道必修化に向け、指導力向上のための講習会の開催や、授業充実のため外部指導者の派遣等を進めていきます。

児童生徒が安全安心な学校生活を過ごせるよう、「つやま学校園安心安全メールシステム」を円滑に運用し、各校での防犯教室開催や安全ボランティアと連携した防犯活動の推進など児童生徒の安全確保の取組を推進します。

(5) 特別支援教育の推進と充実

特別支援教育の充実のために、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制が機能するよう研修等を実施します。また、「リーダー養成講座」を継続実施し、特別支援教育の中心的役割を担う教員を養成していきます。

さらに、通常の学級においても特別支援教育の視点を取り入れた授業への改善を進めます。

一方、個別の教育支援計画や個別の指導計画の立案のため、巡回相談員、専門家、関係機関との連携を図ります。

（６）学校の活性化と開かれた学校づくりの推進

地域・保護者の声を教育に反映させるために、学校評価を実施するとともに、学校ホームページ等を活用して、学校教育の取組を積極的に保護者、地域に発信します。

主幹教諭・指導教諭の新たな職の導入に伴い、校内の組織体制の一層の見直しと充実を図り、学校組織の活性化、機能化に努めます。

また、教員の子どもと向き合う時間の確保や学校事務の効率化を図るため、「スクールサポートセンター」事業を計画的に推進します。

「My Town つやま」活用事業をはじめ、様々な教育活動に地域の人材を活用するよう努めます。

（７）人権教育の推進

基本的な人権尊重の精神が正しく身につくよう、児童生徒の発達に応じて、各教科等で計画的に人権教育を推進し、人権に関する知識理解の深化や豊かな人権感覚の育成に努め、自立を支援します。

また、これら学習活動の基盤としての人権を尊重する環境づくりを進めるため、研修会等を開催し、人権教育に関する資質の向上や指導方法の充実を図ります。

（８）幼稚園における保育活動の充実と小学校との連携

「生きる力」の基礎を培うため、計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して、協同する体験を重ねたり、規範意識の芽生えを培いながら、一人ひとりに応じた総合的な指導を行います。

また、発達や学びの連続性を踏まえ、幼稚園と小学校との円滑な接続を進めます。

（※５）「げんぼくんの家庭学習」

「学校と家庭が連携した家庭学習の充実」を目指し、家庭学習の推進啓発を目的とした取組。ふるさと津山の偉人である箕作阮甫をキャラクター化した「げんぼくん」を学力向上のシンボルとして登場させている。PTAとも連携して、保護者へも協力を依頼しながら、毎日きちんと家庭学習ができるつやまっ子の育成を目指す。



(※6)「リーディングスクール」

学力向上構想懇談会より、学校としては、組織的に授業研究に努め、ニーズに応じた授業改善を行うことが大切であることが示された。「リーディングスクール」とは、その授業改善の津山モデルを構築するための核となる研究推進校である。【勝加茂小学校、北陵中学校】

(※7)「津山で育ってよかった津山っ子育成アピール」

今日の児童生徒の規範意識や家庭での学びが課題となる中で、家庭や地域との協力による具体的な行動連携を、広く市民に呼びかけたアピール文。平成20年10月31日に、教育委員会と健全育成関係3団体が共同で発信した。

(※8)「My Town つやま活用事業」

旧ふるさと学習推進事業。学校ごとに児童生徒と保護者や地域の人々が触れ合うボランティア活動や、地域の特色を活かした豊かな体験活動等、事業内容に応じて補助を行う。地域の人材を活かし、地域の自然や文化を学ぶとともに、ふるさとを愛する心を培い、心の教育の推進を目指す。